



エコプロ 2024 出展協力

会員全体会議・意見交換会を開催

LL紙パックリサイクル推進研究会（略称「LL研」）は、資源の有効活用を図り、循環型社会の形成を実現するため、LL紙パック（ロングライフ仕様の紙パック（酒類を除く））に関する回収・リサイクル事例の調査・研究などを行っています。LL研は2007年4月、印刷工業会液体カートン部会7社で発足し、現在は飲料メーカー、紙パックメーカー、再生紙メーカーなど、28社4団体で構成されています（最終面の会員リスト参照）。会員カバー率は国内市場に流通するLL紙パックの80%に達しています。

本号では2024年度の主な活動についてお知らせします。

エコプロ 2024 出展協力

日本最大級の環境展示会である「エコプロ 2024」（主催：一般社団法人サステナブル経営推進機構、日本経済新聞社）が、2024年12月4日（水）から6日（金）までの3日間、東京・有明の東京ビッグサイト東ホールで開催されました。今年も環境や自然災害対策などの総合展示会「SDGs Week EXPO」のなかのひとつの展示会として開かれ、SDGs Week EXPO 全体では457社・団体が出展し（10月25日

時点での公表値）、3日間の入場者数は63,303人でした。

当研究会は、本年度も「集めて使うリサイクル協会 / 印刷工業会」のブースへの出展協力を行いました。展示パネルには「ご存知ですか？ アルミ付紙パックがリサイクルできること」「主原料が紙のため、トイレットペーパーほか様々な紙製品にリサイクルされています」と大きく表示して展示の趣旨をお伝えしました。

アルミ付紙パック（以下、「アルミ付」といいます）は、「主な原料は紙である」「長期常温保存が可能で食品廃棄物削減に繋がる」「トイレットペーパーなどにリサイクルできる」ことが主な特徴です。

アルミ付のうち小売店などでよく見かけるものは野菜やフルーツのジュース、緑茶、豆乳などです。そのほか、医療現場をはじめとして業務用で使用されているものもあります。200～330ml程度の小さいサイズのものから、1000ml前後の大きいサイズのものまで様々な容量のものがあります。当日はこれらのうちの一部の紙パックをサンプルとして展示しました。

アルミ付を回収しているところは必ずしも多くは



ありませんが、市区町村や小売店の回収ボックス等で回収されているところがあります。しかしながら、そのことがあまりよく知られていないのが現状です。牛乳パックを始めとするアルミなしの紙パック（以下「アルミなし」といいます。）とアルミ付を一緒に回収している市区町村があるほか、アルミなしとアルミ付を別々に資源として回収している市区町村もあります。別々に回収している市区町村では、アルミ付は「紙製容器包装」や「雑がみ」等の区分で回収されていることがあります。ただし、市区町村のごみ分別ガイドをていねいに読まない、そのことが分からない場合もあります。

また、小売店に設置してある回収ボックスで、アルミなしとアルミ付を一緒に回収している場合もあります。こうした回収ボックスには、アルミ付も回収していることが表記されていますが、それが小さい文字で書かれているために、注意して見ないと気づかないことがあります。

このように、市区町村の回収でも、小売店での回収でも、アルミ付を回収しているにもかかわらず、そのことが生活者の皆様に十分に伝えられていない場合があります。こうしたことを、具体例を紹介しながら、お話しさせていただきました。

飲み終わった後のアルミ付紙パックは貴重な再生紙原料となります。このことをより多くの方に知っていただき、リサイクルにご協力いただけるよう、引き続きウェブサイトやリーフレットなどによって情報発信をまいります。ブースにお立ち寄りくださった皆様、ありがとうございました。

2024 年度会員全体会議（2025 年 3 月 24 日）

当研究会では、会員企業・団体の全体会合である会員全体会議を開催しています。コロナ禍ではオン

ラインで開催していましたが、本年度は対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で行いました。年度末の多忙の時期ではありましたが、15 社 4 団体の 22 名の皆様にご出席いただきました。2023 年度の活動を振り返るとともに、2024 年度の活動状況についても説明しました。

2024 年度意見交換会（2025 年 3 月 24 日）

コロナ禍では録画配信のかたちで実施していた情報共有勉強会を、本年度は「意見交換会」としてハイブリッド形式で開催いたしました。飲料メーカー、紙パックメーカー、業界団体、リサイクラーは、それぞれ異なる立場で LL 研に参加しています。今回の意見交換会では、アルミ付き紙パックの回収状況に関する情報共有を行うとともに、回収率が伸び悩んでいることに関して疑問に思っていることや今後に向けての課題などについて、それぞれの立場から発言していただきました。ハイブリッド形式ではありましたが、リアルタイムで対話を行うことができました。意見交換に当たって行われた情報共有の主な内容は下記のとおりです。

◆LL 研の活動紹介 [LL 研事務局]

LL 紙パックは「ロングライフ紙パック」の略である。大半の LL 紙パックにはアルミが使用されているが、アルミなしの LL 紙パックも小売店で販売されている。酒パックについてのリサイクルが一足先に開始された。LL 紙パックについては 2007 年度に紙パックメーカー 7 社の研究会として取組みが開始され、2008 年度に飲料メーカーや関連団体が参加して LL 研が正式にスタートし、翌年度、古紙回収業者や再生紙メーカーが参加した。当初は「事業系」を対象にしていたが、2012 年度にウェブサイトを開設し、2013 年度に「家庭系」も対象に含め



た。2023 年度、活動方針に「LL 紙パックの回収拡大に向けた情報収集と発信」を加えた。

◆容器法の基礎と関連の最新情報 [印刷工業会液体カートン部会環境委員長]

容器包装リサイクル法に関する基本的な事項のほか、国内外の環境関連指針や政策、2022 年 4 月 1 日に施行されたプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律についても説明を行った。

◆アルミ付き紙パックの回収状況について-課題整理に向けての情報共有- [ダイナックス都市環境研究所 有間]

飲料用紙パックの出荷量に占めるアルミ付き紙パックの割合は 27%であった。使用済紙パックの回収率は、アルミなしが29.8%であったのに対し、アルミ付は3.6%であった（2023 年度実態）。

アルミなしが店頭回収を中心に回収されているのに対し、アルミ付の多くは市町村で回収されている。その市町村回収の多くは「紙製容器包装」や「雑がみ」の区分で回収されている。これらには回収区分の名称に「紙パック」が含まれていないため、アルミ付紙パックが回収の対象であることを住民が認識していない可能性もある。小売店の回収ボックスを見ると、「牛乳パック」と表記されているために牛乳以外の紙パックを投入して良いのか不明確なケースや、「アルミ付も回収しています」という表記が小さくて目立たないケースがあるなど、アルミ付を回収していても、そのことが消費者に十分に伝わっていない可能性がある。

アルミ付を可燃ごみとしている市区町村がある一方で、資源として回収している市区町村もあり、なかにはアルミなしと一緒に回収して、トイレットペーパーなどの家庭紙にリサイクルされているケースもある。最近では、回収区分を変更して新たにアル

ミ付を回収するようになった市区町村があるほか、アルミ付の回収を開始した小売店もある。

紙パックは主原料が「紙」であるため、可燃ごみとして捨てられてしまいがちであるが、貴重な資源である。アルコール飲料やミネラルウォーターの中身メーカーの中には、自らの取組みとして紙パックを回収しリサイクルしているケースがある。リサイクルでできた紙製品（トイレットペーパーなど）を販売することによって、その資源循環を可視化しているところもある。

アルミなしとアルミ付とは、識別表示の違いがあり、回収方法にも違いがある。アルミ付は技術的には資源化可能であるが、受入れ可能な再生紙メーカーは少ない。こうした中で、新たにアルミ付を回収するにあたっては、関係者との調整や、消費者への周知が必要である。

再生可能な資源である LL 紙パックをより有効に利用するためのリサイクル促進に、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、今後ともよろしく願い申し上げます。また、LL 紙パックのリサイクル事例に関する情報がありましたら、お寄せください。

LL 紙パックリサイクル推進研究会
<http://ll-pack-recycle.org/>



事務局
株式会社ダイナックス都市環境研究所 有間
東京都港区西新橋 3 丁目 15-12
info@ll-pack-recycle.org

LL 紙パックリサイクル推進研究会 会則

平成 20 年 4 月 1 日 制定
平成 29 年 2 月 24 日 最終改正

第 1 章 総則

(名称)

第 1 条 本会は、LL 紙パックリサイクル推進研究会と称する。

(事務所)

第 2 条 本会は、主たる事務所を東京都に置く。

(目的)

第 3 条 本会は、資源・エネルギーの有効利用を図り、循環型社会の形成に寄与することを目的に、LL 紙パックのリサイクルについて、調査・研究及び会員間の啓発を行うことを目的とする。

第 2 章 事業

(事業)

第 4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- LL 紙パックのリサイクルのための調査・研究
- LL 紙パックについての環境情報の普及・啓発
- 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 組織

(構成)

第 5 条 本会の正会員は LL 紙パックを利用もしくは製造する企業、団体（ホールディングス会社等の関連会社を含む）または LL 紙パックのリサイクルを実施もしくは推進している企業、団体とし、本会の目的に賛同し、所定の正会員会費を納入したものである。

2 本会の賛助会員は LL 紙パックリサイクルを実施又は推進している企業、団体（ホールディングス会社等の関連会社を含む）の中で、古紙回収業、再生紙製造業等に携わり、本会の目的に賛同し、所定の賛助会員会費を納入したものである。

(入会)

第 6 条 本会に入会しようとする者は、運営委員会の承認を得なければならない。

(退会)

第 7 条 会員が退会しようとするときは、事前に書面をもって座長に届け出なければならない。

(役員及び定数)

第 8 条 本会に次の役員等を置く。

座長 1 名 副座長 2 名 監事 1 名 運営委員（座長、副座長、監事を含む）5 名以上 10 名以内

(役員の変任・会務)

第 9 条 運営委員は正会員の自薦、他薦とする。

2 運営委員会において運営委員のうちから座長、副座長、監事を互選する。

第 10 条 役員会の会務を次の通り定める

- 座長は本会を代表し会務を統括する。
- 副座長は座長を補佐し、座長が会務に支障のあるときは、その職務を代理する。
- 監事は本会における各年度の会計報告を監査する。

(役員等の任期)

第 11 条 本会の役員等の任期は 1 年とし、再任を妨げない。退職・異動等の事情による任期途中の役員等の交代については退任する委員が交代する委員を指名する。但し、交代により指名された委員の任期は、他の役員と同時に終了するものとする。

第 4 章 運営および会計

(事業年度)

第 12 条 本会の事業年度は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日とする。

(会員全体会議)

第 13 条 本会の事業運営に関し、運営委員会を経て決議した予算及び計画を会員に報告するため、会員全体会議を開催する。

2 会員全体会議は原則として年 1 回、座長が招集する。

3 会員全体会議の議長は座長が行う。但し、議長を副座長若しくは運営委員から座長が指名することが出来る。

(運営委員会)

第 14 条 本会の予算及び計画をはじめとする事業に関し審議するため、運営委員会を開催する。

2 運営委員会は原則として年 3 回、座長が招集する。但し、座長が必要と認めるときは、臨時運営委員会を招集することができる。

3 運営委員会の判断により、運営委員会内に各種部会をおくことができる。

4 運営委員会の議長については第 13 条第 3 項の規定を準用する。

5 運営委員会の成立には、委員総数の半数を超える委員が出席することを必要とする。やむを得ない事情で出席できない運営委員は、委任状の提出により、出席者の数に加えるものとする。

(会費)

第 15 条 会費は運営委員会において決議し、書面にて会員に通知する。

2 各会員は本会からの請求に基づき、期日までに会費を納入しなければならない。

(事務局)

第 16 条 本会に、事務を処理するため事務局を置く。

(会則の変更)

第 17 条 この会則に規定のないものの追加、会則の修正等が必要な場合は、運営委員会での検討の上、定める。会員全体会議にて会員に報告する。

附 則 この会則は平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この会則は平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この会則は平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この会則は平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この会則は平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この会則は平成 28 年 5 月 18 日から施行する。

附 則 この会則は平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

No.	区分	会社名/団体名	No.	区分	会社名/団体名
1	正会員	株式会社伊藤園	17	正会員	大日本印刷株式会社
2	正会員	カゴメ株式会社	18	正会員	東京製紙株式会社
3	正会員	キッコーマンソイフーズ株式会社	19	正会員	TOPPAN株式会社
4	正会員	キリンビバレッジ株式会社	20	正会員	日本製紙株式会社
5	正会員	熊本県果実農業協同組合連合会	21	正会員	日本テトラパック株式会社
6	正会員	ゴールドパック株式会社	22	正会員	北越パッケージ株式会社
7	正会員	四国化工機株式会社	23	正会員	ウエストロックアジア株式会社
8	正会員	名古屋製酪株式会社	24	正会員	印刷工業会
9	正会員	日世株式会社	25	正会員	一般社団法人全国清涼飲料連合会
10	正会員	株式会社ふくれん	26	正会員	日本豆乳協会
11	正会員	マルサンアイ株式会社	27	正会員	一般社団法人日本乳業協会
12	正会員	明治ホールディングス株式会社	28	賛助会員	コアレックス信栄株式会社
13	正会員	森永乳業株式会社	29	賛助会員	株式会社日誠産業
14	正会員	株式会社ヤクルト本社	30	賛助会員	丸富製紙株式会社
15	正会員	雪印メグミルク株式会社	31	賛助会員	株式会社山田洋治商店
16	正会員	石塚王子ペーパーパッケージング株式会社	32	賛助会員	株式会社米田商店